

## 2024年度 学校評価

### 1. 目的

学校教育活動の全般において、その質の向上に向けて改善策を講じる事、また学校の設置目的を達成するため行う。

### 2. 自己評価実施要領

1) 実施方法：「学校運営評価尺度」を用い、全教職員（13名）を対象に各自が自己評価したものを集計した。「学校運営評価尺度」は、Ⅰ. 学校経営、Ⅱ. 教育課程・教育活動、Ⅲ. 入学・卒業対策、Ⅳ. 学生生活への支援、Ⅴ. 管理運営・財政、Ⅵ. 施設設備、Ⅶ. 教職員の育成、Ⅷ. 広報・地域活動の8カテゴリー161項目の5段階順位尺度から成っている。

#### 2) 実施時期

2025年3月17日～3月31日

#### 3) 実施対象

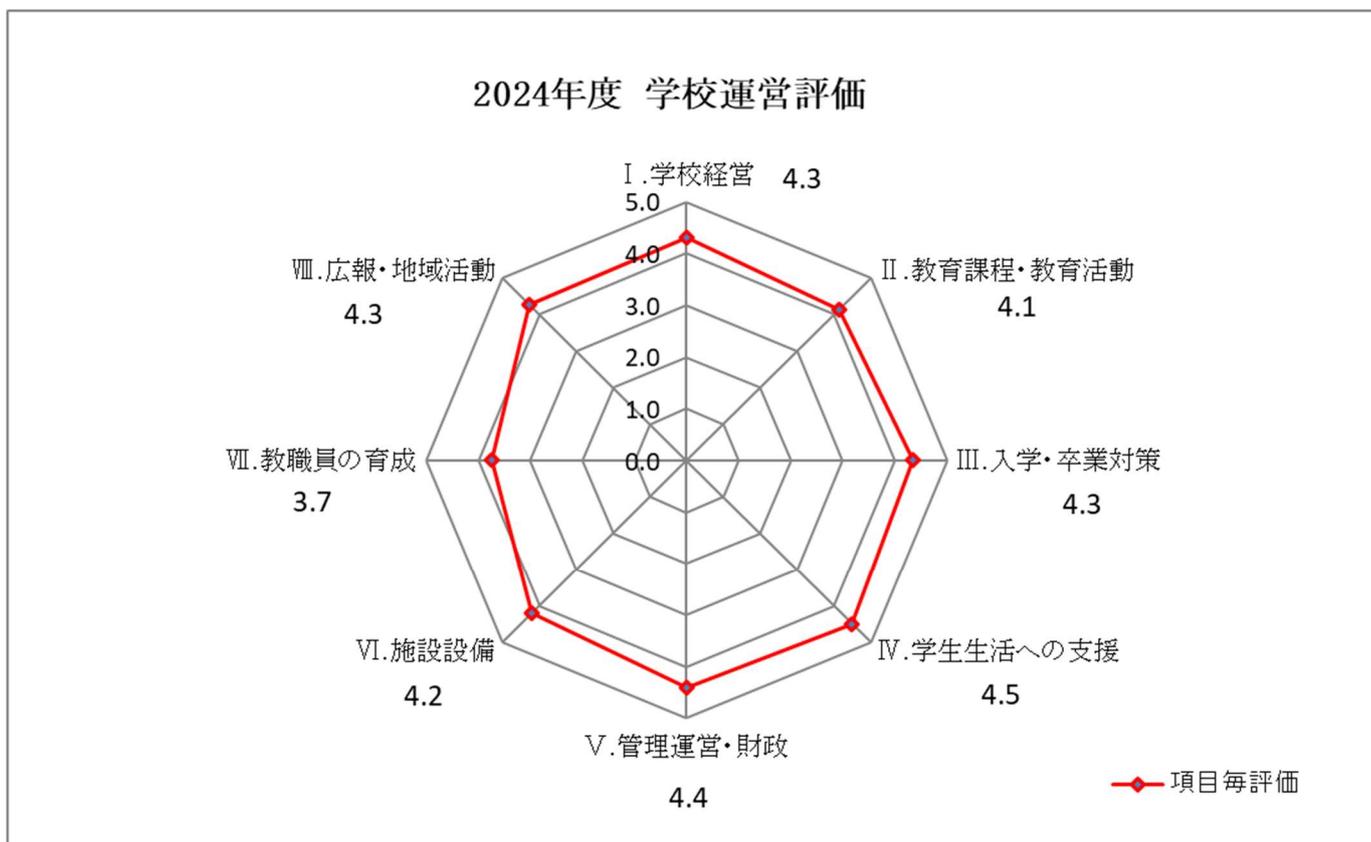
教職員13名、提出率100%

#### 4) 評価

##### ①項目毎の内訳

評価項目	Ⅰ. 学校経営	Ⅱ. 教育課程・活動	Ⅲ. 入学・卒業対策	Ⅳ. 学生生活への支援	Ⅴ. 管理運営・財政	Ⅵ. 施設設備	Ⅶ. 教職員の育成	Ⅷ. 広報・地域活動
2024年度	4.3	4.1	4.3	4.5	4.4	4.2	3.7	4.3

##### ②項目毎の比較



### 3. 自己評価結果

#### I 「学校経営」

評価結果は 4.0 から 4.3 と上昇した。大学の中長期事業計画に沿って本校の部門目標（BSC）を作成し、教職員がそれぞれの役割を認識し目標達成に向け学校運営に参画していた。「会議が共通認識の場として機能している」や「人材の適材適所」などが昨年度より大きく改善した。「全職員間で連携やコミュニケーションが機能している」も高評価であることからチームワークが高まったといえる。「中間評価」と「後期にむけた計画修正」には課題が残った。

#### II 「教育課程・教育活動」

新カリキュラム 3 年目の運用が無事に終了した。学生からの授業評価は、平均 4.0、実習評価は平均 4.0 と満足度は高い。評価コメントや意見など分析し、教育内容等についてブラッシュアップを図っていく。

臨地実習は、安心して実習に臨める環境を整えるとともに、統一した学生指導が実施できるよう実習指導案の見直しを実施していく。

#### III 「入学・卒業対策」

第 114 回看護師国家試験合格率 100%、就職率 100%であった。既卒者の中途退職の防止策として、ホームカミングデイの開催や憩い場（喫茶）の提供を行うなど母校としてできる協力を企画していく。

高校訪問を実施し進路指導の教師との連携を強化した結果、オープンキャンパス参加者の増加と指定校推薦者の増加に繋がった。また、公募推薦と短大卒選考を新たに設けたことで志願者も増加している。一般選考志願者数は年々減少傾向にあり、この課題を教職員全体で共有し、今後も学生募集活動の充実に向け教職員一丸となって取り組んでいく。

#### IV 「学生生活への支援」

学生の精神的なサポートは学年責任者が中心となり個別に対応し、必要に応じて保護者との連携（電話・面談）を図り支援した。学生相談窓口である慈恵大学の臨床心理士と連携を図り、学生が安心して学業に専念できるよう支援した。今後も学生生活への支援は継続していく。

自治会活動が学生同士で主体的に取り組むことができるよう担当教員を中心に支援した。次年度は、学年の垣根を超えた交流会を企画し、学生同士の絆を深めていきたい。

#### V 「管理運営・財政」

災害時避難訓練を 3 学年合同で実施した。避難経路の確認や 2 次対応の現地訓練を通して災害時の意識を高めることができた。各学年の教室に個人用防災グッズを設置し、有事に備えた。また、附属第三病院の救護所設置訓練に被災者役として 2 年生全員がボランティア参加し、医療者としての姿勢や対応の在り方について学ぶことができた。

慈恵大学のハラスメント防止研修会に全教員が参加し、ハラスメント防止の意識を高めた。

#### VI 「施設整備」

校内のインターネット環境（Wi-Fi）が整備でき、e テキストやタブレット端末を活用した ICT 教育が充実した。今年も VR 教材を活用した演習を実施することができ臨場感ある学びへと貢献している。学生が自由に利用できるホールはあるが、より充実した環境となるよう整備していく。

## VII「教員の育成」

評価結果は3.8から3.7と低下した。教育力向上のための3校による領域別交流会は3年目を迎え、情報交換や授業参観、学習会など実施しており、相互に教育力を高める機会となっている。

また、日本看護教育学会第34回学術集会の運営委員および実行委員として参加協力できた。しかし、伝達講習会の実施ができておらず、参加内容の共有に課題が残った。教育力向上のための環境づくりを推進していく。

## VIII「広報・地域活動」

評価結果は、3.7から4.3と上昇した。広報活動の一環としてホームページの更新を担当制とし、年間計画に基づいて全教員が協力して取り組んだ。高校訪問も早期に完了し、昨年度より志願者数の増加を図ることができた。今後は、SNSを活用したタイムリーな情報発信を予定している。

ボランティア活動は、1年生のほぼ全員が参加することができた。また、近隣中学校より依頼を受け、がん教育の講演会に学生2名と教員がボランティアとして参加し、地域貢献の一助となった。今後は、学生の主体的な関与により一層の促進を図るため、次年度より各学年から広報委員とボランティア推進委員を選出し、活動の活性化と継続的な取り組みの強化を図っていく。

### 4. 学校関係者評価結果

2名の学校関係評価者より頂いた意見を以下にまとめる

- 1) 学校経営では、評価結果が向上しており、欠員のある状況でも柔軟に対応できた点は評価できる。また、会議内容を事前に文書化・共有するなど業務の効率化を図る工夫も評価に値する。2025年度に新教員3名が着任し、今後の連携強化が期待される。
- 2) 教育課程・教育活動では、教員間での指導内容に差異が生じないように実習指導案の標準化が必要である。また、学生からのアンケートは、回答率の向上を目指した方法の工夫が必要である。
- 3) 入学・卒業対策では、一般受験者数は減少傾向にあるため、募集戦略の見直しが必要である。他の専門学校にはない14年連続の看護師国家試験合格率100%や、系列大学病院へのほぼ100%の就職実績といった強みを受験生に対して積極的に訴求していくとよい。
- 4) 管理運営・財政では、防災・災害対策として、学生用の防災グッズ整備は、他校にない独自性があり、高く評価できる。
- 5) ボランティア活動に参加する学生がいる点は、評価に値する。

### 5. 最終評価結果

学校運営に関する自己評価、学校関係者評価を受け、最終評価として検討すべき課題は以下の通りである。

- 1) 実習指導案の標準化とマニュアル整備
- 2) 教育内容・指導体制のブラッシュアップ
- 3) 各種アンケート調査内容の改善と回答率の向上
- 4) 強みを生かした学生募集と広報戦略の再構築
- 5) 施設整備における学生ニーズへの対応
- 6) 教員育成と情報共有の推進